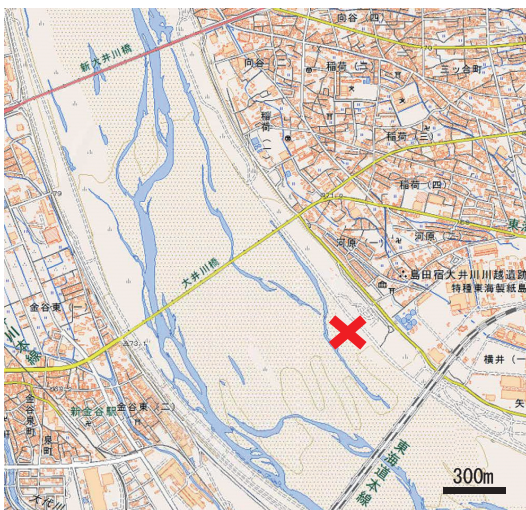


C027 大井川河川礫のインブリケーション (静岡県
GEO DATA(19) : 地学散歩(98))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 楠, 賢司, 延原, 尊美, 熊野, 善介 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026936

C027 大井川河川礫のインプリケーション



国土地理院 地理院地図（電子国土 Web）

大井川下流に架かる大井川橋周辺の河原を少し遠くから眺めると、礫が規則的に配列している様子を確認できる。このような堆積構造をインプリケーション（覆瓦構造）と呼ぶ。川から運ばれてくる扁平形の礫は、水流による抵抗が小さくなるよう平らな面が下流側にお辞儀をするように堆積する。そして次に運搬されてくる礫は、先に堆積した礫の上流側の平らな面に接する形で同じように堆積する。その後次々と運ばれてくる礫も同様に次から次へとその前の礫に寄りかかるように積み重なっていく。まるで屋根瓦のように並んで見えることから、このような名称が付けられた。この性質を用いれば、川の水が枯れていてもその河川の水流の向きを判定できる。また地層中の礫の配列から当時の水流方向（古流向）を推定することもできる。なおこの周辺の河原の礫は主に四万十帯の堆積岩（礫岩、砂岩、頁岩、粘板岩、チャートなど）で構成されている。写真のように大礫サイズのインプリケーションが広く見られる様子は、大井川が日本有数の急流河川であることを思い起こさせる。（楠 賢司・延原尊美・熊野善介）